

西河技術経営塾研究科前期 講義録 SH06

作成：渋谷 加津美

日時：平成 29 年（2017 年） 10 月 19 日（木）午前 10 時 30 分 ～ 午前 12 時 00 分

場所：アーネスト育成財団内会議室（渋谷区代々木 1-57-2 ドルミ代々木 704 号）

講師：小平和一郎

研究生：渋谷加津美

講義名：(SH05)¹「第 5 章戦略の基礎と技術経営の担当部のストーリーを決定する」（5）

提出資料：講師を担当する第 5 章の講義資料 P32～40、P43～48 の講義原稿

講義内容

1. 概要

第 6 回目（SH06）の講義（研修）を行った。内容は、以下の通り。

第 5 章「戦略の基礎と技術経営を学ぶ」についてのレジュメに関しては、今回提出分の内容の内、課題点・不明点「イノベーションのジレンマ、オープンイノベーション」を中心に打合せを行った。

2. 研究内容

（1）概要

資料「講義原案」の課題部分について質疑形式で行った。

イノベーションのジレンマやオープンイノベーションについては、体験談も含め、講義できるように準備すること。

（2）イノベーションのジレンマ

この現象は、ハーバード・ビジネス・スクールのクレイントン・クリステンセン教授がハードディスクドライブ歴史を調べることで明らかにした。日本の半導体、電機産業も一次は、世界シェア 1 位、世界最高品質、世界最先端の技術があったが、いずれもシェアを失い、その製造から撤退、破綻、壊滅した。これは、世の中の変化、つまりパラダイムシフトに対応することができず「イノベーションのジレンマ」に陥ったということである。

自分自身の実体験で講義できるように本講演内容を研究する。

（3）オープンイノベーション

オープンだと他社の良い技術を採用でき技術革新のスピードがあがる。また、自社技術も他社に採用され新規マーケットに展開されることになる。

この自社⇄他社を事例について研究し講義できるようにしておくこと。

3. 次回までの宿題

・第 5 章講義の組み立て

講義範囲内において最終案資料を再整理する。この整理に合わせて最終見直しを行う。

4. 次回日程

（1）次回日程 10 月 25 日（水）第 5 回塾講師担当日に予定する。

（2）参考資料

研究の参考資料として、下記を選定した。

『コトラーのマーケティング 4.0』フィリップ・コトラー著

『日本型モノづくりの敗北』湯之上 隆著

以上

¹（注）SH01：SH とは、Shibuya のこと。01 は、1 回目。第 3 回は、SH03 となる。